

6章 地域別の取組

《地域別計画の概要》

内間木、北部、東部、西部、南部の5つの地域ごとに、それぞれの地域の特性を生かしたみどりのまちづくりについて示しています。地域別計画は、地域別の「みどりのカルテ」と「みどりの方針」の2つから成り立っています。

- みどりのカルテは、アンケートによる市民の皆さんとの声やみどりの持つ役割から見た地域ごとの特徴をまとめています。
- 地域別のみどりの方針は、地域の主な課題を整理するとともに、これから取り組む主な内容を地域ごとの方針図（地図）とあわせて示しています。

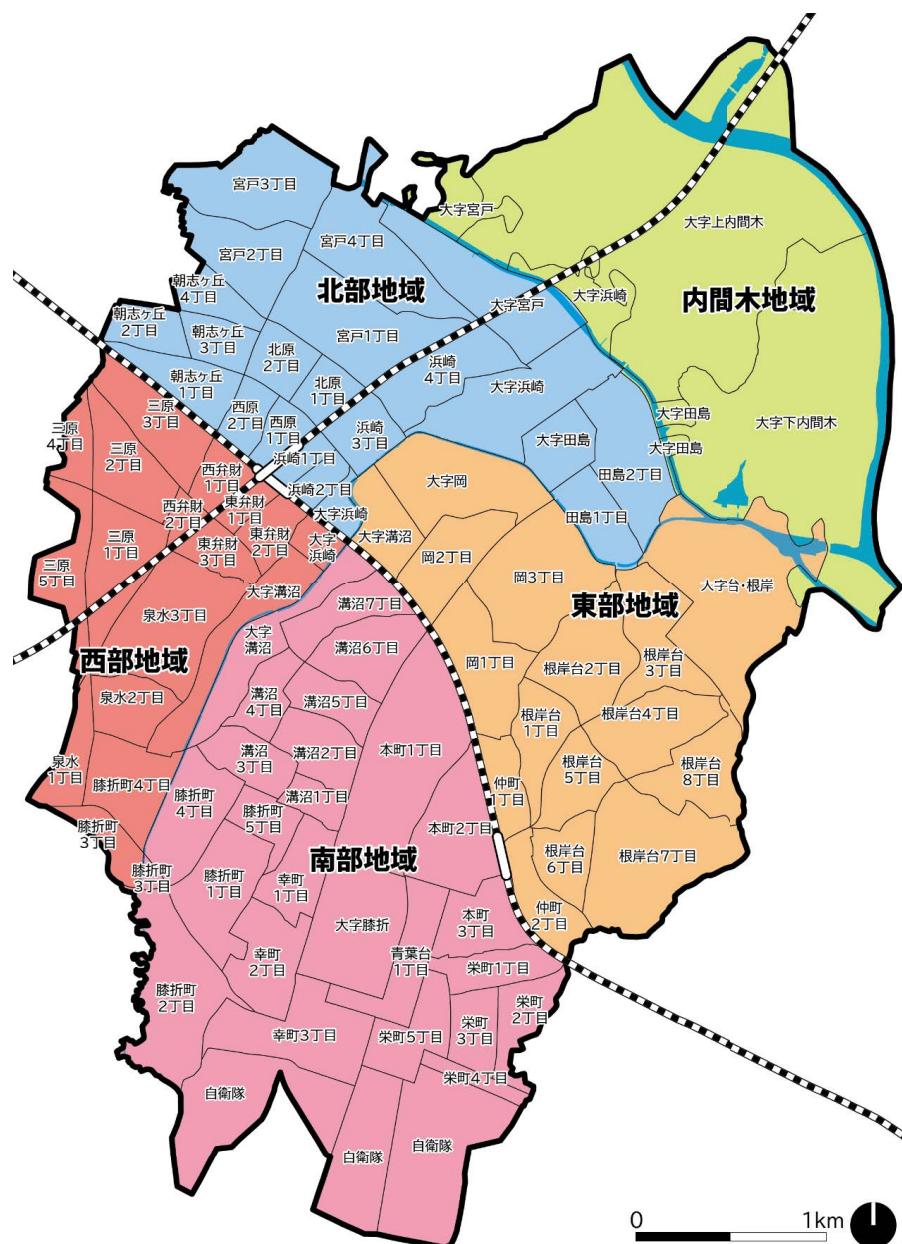


図 6-1 地域別計画の地域割り

グリーンインフラ地域別カルテは、以下の構成で作成しています。

表 6-1 グリーンインフラ地域別カルテの構成

地域名				グリーンインフラの効用別分析	効用別分析結果
面積	人口	みどり率	地域の位置		
市民アンケート調査	問 1 みどりに対する満足度				健全な水循環を支えるみどり
	問 2 豊か・魅力的と感じるみどり				都市の気温上昇を抑えるみどり
	問 3 将来に残していきたいと思うみどり				地球温暖化の緩和に貢献するみどり
	問 4 公園利用頻度				生き物の生息空間となるみどり
	問 5 近くの公園についての評価				まちの景観・郷土の風景を形成するみどり
	問 6 みどりのまちづくりに必要な施策				暮らしに息づく農業活動の場となるみどり
	問 7 緑化活動等への参加経験				健康づくりの場となるみどり
	問 10 みどりを守るための仮定の支払額				身近な遊び場となるみどり
					にぎわいや交流の場となるみどり
					防災拠点となるみどり

表 6-2 グリーンインフラの分析指標

評価項目	評価指標	内容	町丁目別の値
健全な水循環を支えるみどり	雨水の地表面浸透量 (mm/日)	水循環シミュレーションにより算定された地表面浸透量	地表面浸透量の平均
	雨水の地表面排水量 (mm/日)	水循環シミュレーションにより算定された地表面排水量	地表面排水量の平均
都市の気温上昇を抑えるみどり	地表面温度 (°C)	GIタイプの分布とランドサット衛星観測データより作成した輝度温度との回帰分析による推測地表面温度	推測地表面温度の平均
地球温暖化の緩和に貢献するみどり	炭素固定量 (トン/ha/年)	GIタイプにおける純生産量の算定を介した年間の炭素固定量の算定	炭素固定量の平均
生き物の生息空間となるみどり	生物指標の多様度 (%)	34の生物指標を分母とした GI タイプで生息が想定される生物指標の数の割合	生物指標の多様度の平均
まちの景観・郷土の風景を形成するみどり	豊か・魅力的と感じるみどりの回答数 (件)	市民アンケート調査において抽出された豊か・魅力的と感じるみどりの回答数	回答数の平均
暮らしに息づく農業活動の場となるみどり	農業活動空間面積率 (%)	耕作地及び休耕地の 50%の面積を評価単位空間面積で除したもの	面積率の平均
健康づくりの場となるみどり	散策路・歩道の長さ (m/ha)	公園緑地等の遊歩道と道路の歩道の長さ	1haあたりの歩道等の長さ
身近な遊び場となるみどり	必要公園面積に対する現況公園の過不足面積 (ha)	半径 500m以内の人口に近隣住区モデルの住区基幹公園標準面積(4ha)を乗じた必要面積に対する現況の都市公園等の過不足面積	過不足面積の平均
にぎわいや交流の場となるみどり	イベント開催に供するオープンスペース面積 (m ² /人)	評価地点から 500m以内における 1000 m ² 以上の都市公園やイベント開催に供するオープンスペースの一人当たりの面積	面積の平均
避難地や防災拠点となるみどり	非水害時における避難有効面積 (m ² /人)	評価地点から 500m以内における学校や 1000 m ² 以上の都市公園等における一人当たりの避難有効面積	避難有効面積の平均
	水害時における避難有効面積 (m ² /人)		避難有効面積の平均

内間木地域

面 積	人 口	みどり率	
3.7km ²	1,309 人	64.7%	
市民アンケート調査	問 1 みどりに対する満足度 (回答の平均)	b.お住いの近くのみどりの豊かさや魅力に満足している	0.36 (そう思わない-1.0~1.0そう思う)
		d.お住いの近くの公園に満足している	0.04 (そう思わない-1.0~1.0そう思う)
		g.災害時に避難地や活動拠点として機能する公園がある	0.04 (そう思わない-1.0~1.0そう思う)
		h.良いまちの景観がつくられている	0.00 (そう思わない-1.0~1.0そう思う)
	問 2 豊か・魅力的と感じるみどり	新河岸川（22件）、荒川（5件）、秋ヶ瀬（2件）	
	問 3 将来に残したいと思うみどり	新河岸川（6件）、荒川（3件）、秋ヶ瀬（1件）	
	問 4 年間公園利用頻度 (回答の平均)	13.5回（市全体30.9回）	
	問 5 近くの公園の評価 (回答の平均)	a.ベンチなどの休憩施設が充実している	0.22 (そう思わない-1.0~1.0そう思う)
		c.公園の植物がよい景観をつくりっている	0.11 (そう思わない-1.0~1.0そう思う)
	問 6 みどりのまちづくりに必要な施策 (上位を表示)	【1位】だれもが気軽に利用できるように小規模でも身近な公園や緑地を充実させる（34.4%）	【2位】健康づくりや自然とのふれあいの場となる川沿いの散歩道を充実させる（21.9%）
		【3位】道路においてみどり豊かで安全に歩ける歩道空間を整備する（12.5%）	【4位】民間の協力を得て、魅力的な公園的空间を整備し運営する（6.3%）、公園や河川、農地を活用したイベントを充実させる（6.3%）、まちづくりへの参加やイベントなどの情報発信を充実させる（6.3%）
	問 7 緑化活動等への参加経験 (回答者における割合)	【1位】生け垣や花壇など自宅の庭の緑化（28.6%）	【1位】全てに参加したことがない（28.6%）
		【3位】道路などの清掃活動（23.8%）	【4位】市民農園や近所の空き地を借りた野菜や草花の生産（9.5%）
	問 10 みどりを守るために仮定の支払額 (支払額の平均)	【1位】こどもの遊び場や散策の場となるみどり（¥310）	【2位】CO ₂ の吸収減となり地球温暖化を緩和するみどり（¥215）
		【3位】日射の緩和等により都市の気温上昇を緩和するみどり（¥135）	【4位】まちの景観、郷土の風景を形成するみどり（¥70）



みどりのカルテ

地域	町丁目	雨水の地表面浸透量 (mm/日)	雨水の地表面排水量 (mm/日)	地表面温度 (°C)	炭素固定量 (t/ha/年)	生物指標の多様度 (%)	豊か・魅力と感じるみどりの回答数 (件)	農業活動空間面積率 (%)	散策路・歩道の長さ (m/ha)	必要公園面積に対する現況公園の過不足面積 (ha)	イベント開催に供するオープンスペース面積 (m²/人)	非水害時における一人あたりの避難有効面積 (m²/人)	水害時における一人あたりの避難有効面積 (m²/人)
内間木	大字上内間木	0.45	0.66	32.08	2.38	38.07	10.19	9.5%	49.9	2.04	96.64	95.01	21.11
	大字下内間木	0.50	0.28	30.93	3.32	48.29	16.31	9.7%	76.7	0.50	86.57	66.91	17.09
	大字宮戸の一部	0.50	0.06	30.83	3.81	52.37	9.63	25.6%	1.0	0.06	0.69	28.93	0.40
	大字浜崎の一部	0.58	0.50	31.51	2.99	45.60	12.79	3.4%	12.4	1.53	44.13	42.16	1.51
	大字田島の一部	0.38	0.28	31.34	2.24	41.42	13.31	0.2%	8.7	1.25	11.56	9.61	1.33
	大字田島の一部	0.49	0.02	29.81	3.23	56.27	24.14	0.0%	0.0	2.67	31.35	15.46	0.27
地域全体		0.47	0.49	31.58	2.79	42.64	12.61	9.7%	56.5	1.39	87.27	79.78	18.08
朝霞市全域		0.77	1.08	33.06	1.59	32.47	11.22	9.9%	75.1	-1.21	32.12	32.95	14.95

グリーンインフラの効用別分析

健全な水循環を支えるみどり	この地域は、地下水が浅い場所にあるため、雨水が地面に染み込みにくい特徴があります。そのため、雨水を一時的に貯める場所を確保することが大切です。
都市の気温上昇を抑えるみどり	荒川や新河岸川などの水辺に囲まれており、夏に水の張られる田んぼや、木陰を作る屋敷林（家の周りの林）などがあるため、他の地域に比べて地面の温度が低くなっています。しかし近年は、物流倉庫や工場が増えており、気温が上がる「ヒートアイランド現象」が見られ始めています。
地球温暖化の緩和に貢献するみどり	荒川や新河岸川、朝霞調節池の広い草地のほか、田畠や屋敷林などが広がっており、二酸化炭素を吸収する大きな役割を果たしています。
生き物の生息空間となるみどり	朝霞調節池は、水面から湿地、そして林へと環境が移り変わる環境があり、多くの種類の生き物が暮らしています。また、川や水辺は生き物の移動ルート（エコロジカルネットワーク）としても重要で、特に朝霞調節池とその周辺は優れた自然環境です。点在する屋敷林や林も、森や草原を好む生き物たちのすみかになっています。
まちの景観・郷土の風景を形成するみどり	荒川、新河岸川、朝霞調節池は、市民の皆さんに「豊かで魅力的なみどり」として親しまれています。こうした水辺や田園の風景が、内間木地域らしい美しい景観をつくっています。
暮らしに息づく農業活動の場となるみどり	まとまった農地が残っており、水田や畑として利用されています。しかし、近年は使われていない農地（休耕地）も多く見られるようになっています。
健康づくりの場となるみどり	荒川沿いには、サイクリングやジョギング、散歩ができるルートが広く整備されています。新河岸川の左岸には遊歩道がありませんが、今後、新しい道路（和光富士見バイパス）ができるのに合わせて、この地域を縦断する歩道の整備が期待されています。
身近な遊び場となるみどり	現在、公園は少ない状況ですが、川沿いの広い空間や神社・お寺の境内などがあります。今後は、新しい道路の整備に合わせて「内間木公園」のリニューアルが計画されており、地域の中心となる公園づくりが期待されています。
にぎわいや交流の場となるみどり	内間木公園や神社・お寺の境内は、お祭りやイベントを開くための広場として活用できると考えられます。
防災拠点となるみどり	内間木公園のリニューアルにおいて、災害時にも役立つ機能が備わることが期待されています。

内間木地域のみどりの方針

- 《身近な公園の不足》 この地域は公園が少なく、市民アンケートでも「身近な憩いの場がほしい」という声が最も多く挙がっています。
- 《水辺空間の柔軟な活用》 荒川や新河岸川、朝霞調節池などの豊かな自然環境があります。自然を守りながら、遊び場や自然との触れ合いの場、健康づくりの場として、もっと自由に活用する工夫が求められています。
- 《田園景観の保全と活用》 使われていない農地（休耕地）が比較的多くあります。この地域ならではの田園風景や、そこに暮らす生き物たちをどう守り、活用していくかが課題となっています。
- 《水害リスクへの備え》 川に近く土地が低いため、大雨による浸水のリスクが高い地域です。その一方で、災害時に安全を確保できる場所が不足しています。
- 《地面がアスファルトなどに覆われることによる環境への影響》 近年、工場などが増え、地面がアスファルトで覆われることが多くなりました。そのため、夏場の地面の温度上昇や、大雨の際に雨水が一気に流れ出してしまうことへの対策が必要です。

主な課題

① 暮らしを支えるみどりの拠点とネットワークをつくる

- a. 公園が不足している現状に対し、内間木公園を広げる整備を進めます。住民参加のワークショップなどを通じて、「自分たちの手で育てる公園」としてリニューアルし、身近な遊び場として、また地域の交流拠点や防災拠点としての整備を検討します。
- b. バイパス整備などに伴う周辺地域の開発においては、内間木公園など地域のみどりの拠点とのつながりを大切にし、並木道や公園など、みどりの空間を充実させるよう働きかけます。

② 田園と水辺の景観を守り・生かす

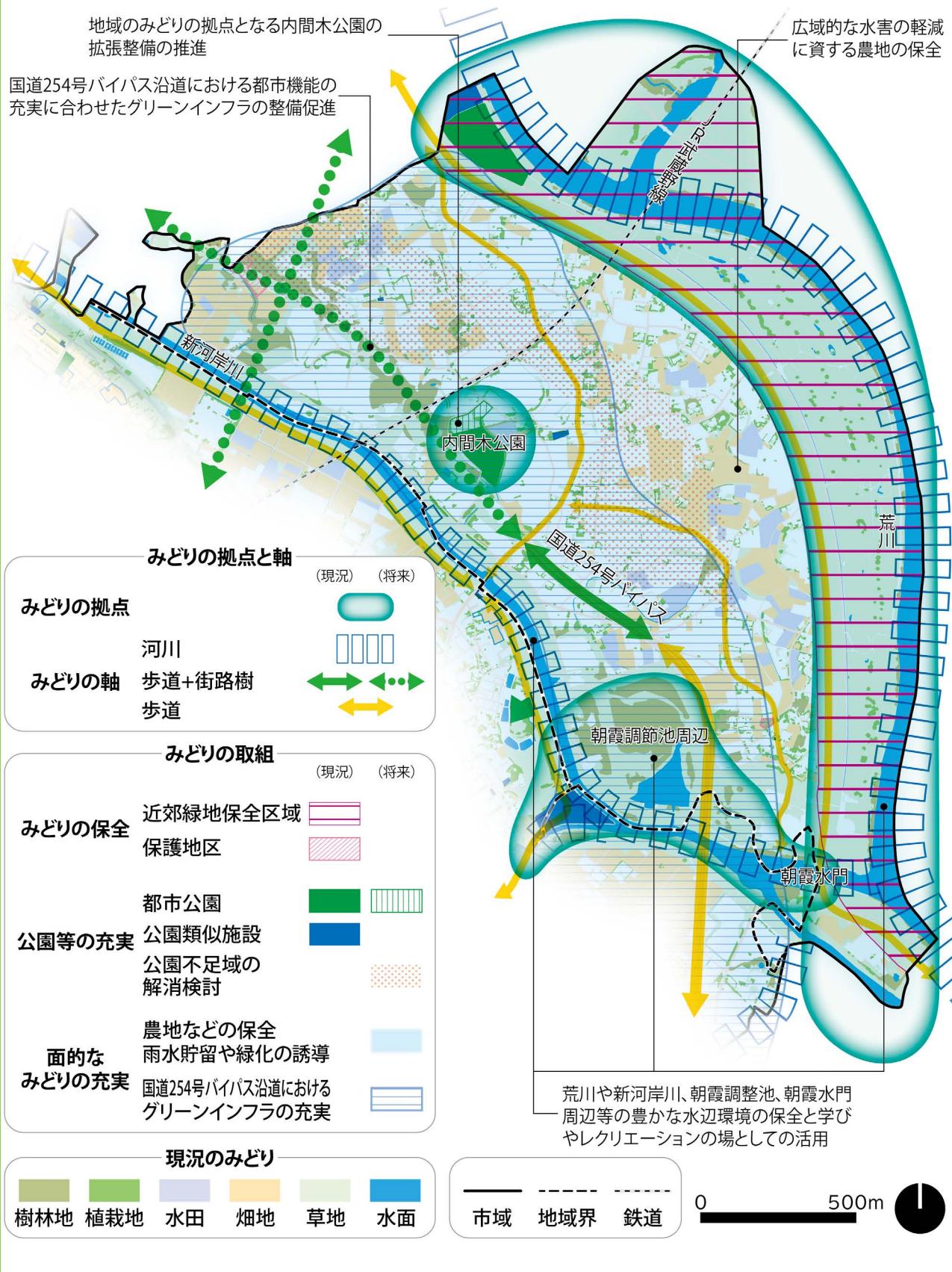
- a. 農業の担い手を育てたり、農作業の支援を行ったりするとともに、「農地バンク」の活用などを通じて、農地が減らないような取り組みを進めます。
- b. 地域の財産である田園風景や水辺の環境を守りながら、その魅力を市民の皆さんが楽しめるような活用方法を考えます。
- c. 荒川や新河岸川、朝霞調節池、朝霞水門周辺の豊かな自然景観を守りながら生かし、地域の中の人も外の人も楽しめる、魅力的な水辺空間づくりを進めます。

③ 災害に強く、環境にやさしい地域をつくる

- a. 農地を守るとともに、開発が行われる場合は雨水を貯める機能を確保してもらうなど、雨水を一時的に貯める機能（田んぼや調整池など）を生かし、水害のリスクを減らすまちづくりを考えます。
- b. バイパス整備が行われる際には、豊かな自然環境が失われることのないよう、道路区域内への緑地帯や雨水を貯める施設の設置について働きかけます。
- c. バイパス整備などに伴う周辺地域の開発においては、グリーンインフラ（自然が持つ多様な機能）を生かし、環境や景観に配慮した取り組みが進むよう検討します。

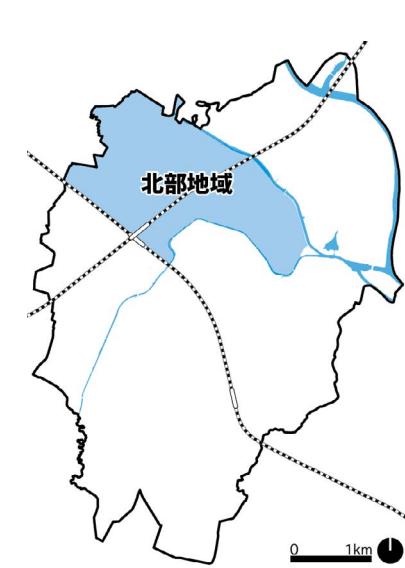
主な取組

みどりの方針図



北部地域

面 積	人 口	みどり率	
3.4km ²	30,979 人	31.3%	
市民アンケート調査	問 1 みどりに対する満足度 (回答の平均)	b.お住いの近くのみどりの豊かさや魅力に満足している	-0.02 (そう思わない-1.0~1.0そう思う)
		d.お住いの近くの公園に満足している	-0.12 (そう思わない-1.0~1.0そう思う)
		g.災害時に避難地や活動拠点として機能する公園がある	-0.18 (そう思わない-1.0~1.0そう思う)
		h.良いまちの景観がつくられている	-0.02 (そう思わない-1.0~1.0そう思う)
	問 2 豊か・魅力的と感じるみどり	黒目川（331 件）、新河岸川（22 件）、わくわくドーム（9 件）、田島緑地（9 件）、北割公園（3 件）、北朝霞公園（2 件）	
	問 3 将来に残したいと思うみどり	黒目川（154 件）、新河岸川（6 件）、わくわくドーム（2 件）、田島緑地（2 件）、北割公園（2 件）、北朝霞公園（2 件）	
	問 4 年間公園利用頻度 (回答の平均)	29.3 回（市全体 30.9 回）	
	問 5 近くの公園の評価 (回答の平均)	a.ベンチなどの休憩施設が充実している	-0.14 (そう思わない-1.0~1.0そう思う)
	c.公園の植物がよい景観をつくりっている	0.04 (そう思わない-1.0~1.0そう思う)	
	b.安全に遊べる遊具が充実している	-0.02 (そう思わない-1.0~1.0そう思う)	
	h.近くの住民によく利用されている	-0.39 (そう思わない-1.0~1.0そう思う)	
	問 6 みどりのまちづくりに必要な施策 (上位を表示)	【1位】道路においてみどり豊かで安全に歩ける歩道空間を整備する（16.5%）	【2位】だれもが気軽に利用できるよう、小規模でも身近な公園や緑地を充実させる（15.4%）
	【3位】健康づくりや自然とのふれあいの場となる川沿いの散歩道を充実させる（14.3%）	【4位】様々なレクリエーションを楽しめるように大きな公園を充実させる（8.1%）	
	問 7 緑化活動等への参加経験 (回答者における割合)	【1位】全てに参加したことがない（11.7%）	【2位】生け垣や花壇など自宅の庭の緑化（10.5%）
	【3位】道路などの清掃活動（9.2%）	【4位】市民農園や近所の空き地を借りた野菜や草花の生産（7.2%）	
	問 10 みどりを守るために仮定の支払額 (支払額の平均)	【1位】こどもの遊び場や散策の場となるみどり（¥151）	【2位】CO ₂ の吸収減となり地球温暖化を緩和するみどり（¥151）
	【3位】水害の軽減など自然災害による被害を軽減するみどり（¥135）	【4位】日射の緩和等により都市の気温上昇を緩和するみどり（¥121）	



みどりのカルテ

地域	町丁目	雨水の地表面浸透量 (mm/日)	雨水の地表面排水量 (mm/日)	地表面温度 (°C)	炭素固定量 (t/ha/年)	生物指標の多様度 (%)	豊か・魅力を感じるみどりの回答数(件)	農業活動空間面積率 (%)	散策路・歩道の長さ (m/ha)	必要公園面積に対する現況公園の過不足面積 (ha)	イベント開催に供するオープンスペース面積 (m²/人)	非水害時における一人あたりの避難有効面積 (m²/人)	水害時における一人あたりの避難有効面積 (m²/人)
北部	北原1丁目	1.02	1.33	33.96	0.87	22.29	8.14	8.5%	105.4	-3.61	5.05	4.45	3.58
	北原2丁目	0.70	1.64	34.42	0.29	19.03	0.52	0.0%	187.9	-3.85	2.11	2.97	2.97
	西原1丁目	0.29	2.01	34.54	0.22	11.65	0.49	2.9%	160.7	-4.77	3.71	3.31	3.15
	西原2丁目	0.58	1.69	34.44	0.26	17.07	1.90	2.4%	55.8	-4.48	1.95	2.62	2.62
	浜崎1丁目	0.53	1.72	34.42	0.32	18.40	0.62	1.1%	164.4	-2.59	6.86	4.92	3.06
	浜崎2丁目	0.79	1.26	33.62	1.12	28.93	2.30	13.6%	163.7	-2.64	10.64	8.38	2.40
	浜崎4丁目	0.78	1.16	33.61	1.25	32.10	2.47	13.0%	45.3	-2.35	10.72	15.14	0.78
	浜崎3丁目	0.60	1.37	33.86	0.76	24.53	27.33	3.6%	201.0	-1.84	13.72	15.23	3.20
	朝志ヶ丘1丁目	0.82	1.50	33.60	1.02	28.97	1.42	0.0%	130.2	-10.06	0.82	1.36	1.36
	朝志ヶ丘2丁目	0.99	1.16	33.97	0.84	28.99	0.97	1.0%	12.8	-5.77	0.72	0.79	0.79
	朝志ヶ丘3丁目	0.87	1.43	34.59	0.38	26.83	0.86	4.1%	26.6	-6.56	0.77	1.72	1.72
	朝志ヶ丘4丁目	0.72	1.57	34.54	0.38	21.73	0.85	4.9%	9.3	-7.51	0.48	1.09	1.09
	宮戸1丁目	0.56	1.78	33.28	0.59	15.97	1.10	2.1%	35.7	-1.21	2.02	3.04	1.60
	宮戸2丁目	0.96	1.31	34.25	0.78	25.64	1.37	7.8%	26.3	-4.85	0.77	0.54	0.54
	宮戸3丁目	0.87	1.07	33.59	1.18	33.65	3.04	11.6%	60.4	-2.94	2.09	1.15	0.42
	宮戸4丁目	0.93	1.15	33.56	1.23	31.05	2.66	9.7%	115.2	-3.79	1.33	3.04	0.35
	田島1丁目	0.40	1.32	33.70	0.73	24.69	52.47	3.6%	210.2	2.48	27.26	14.23	4.58
	田島2丁目	0.45	1.00	32.63	1.95	37.59	17.82	6.5%	167.4	0.59	22.74	11.10	1.60
	大字浜崎の一部	0.62	0.53	32.15	2.85	39.77	26.05	42.5%	79.7	1.02	26.59	32.03	1.18
	大字浜崎の一部	0.45	1.07	32.53	1.61	35.52	84.29	10.9%	97.5	0.70	14.97	13.27	1.12
	大字宮戸の一部	0.45	0.59	31.75	2.79	41.59	9.74	25.7%	58.3	0.52	5.17	19.93	0.65
	大字田島の一部	0.53	0.76	33.07	2.01	28.90	22.33	30.5%	88.7	3.02	33.58	23.51	0.95
	地域全体	0.68	1.18	33.35	1.33	29.40	10.74	12.2%	88.8	-2.15	9.30	9.86	1.43
	朝霞市全域	0.77	1.08	33.06	1.59	32.47	11.22	9.9%	75.1	-1.21	32.12	32.95	14.95

グリーンインフラの効用別分析

健全な水循環を支えるみどり	住宅などが多いため、市全体と比べると、雨水が地面に浸み込みにくい地域です。しかし、畑や公園などの土がある場所ではよく浸み込むため、水害を防いだり、地下水を蓄えたりするのに役立っています。
都市の気温上昇を抑えるみどり	建物や畑が多いため、全体的に地面の温度は高めです。一方で、川沿いや木々のある場所は涼しい場所（クールアイランド）になっていて、まちの暑さを和らげるのに役立っています。
地球温暖化の緩和に貢献するみどり	斜面の林や川沿いの草地などは、二酸化炭素を吸収しています。しかし、雑木林では木が高齢になったり、「ナラ枯れ」という病気が増えたりしていることが課題です。
生き物の生息空間となるみどり	新河岸川と黒目川には、たくさんの種類の生き物がいます。畑と川がセットになって、生き物のすみかをつくっています。まちなかでも、小さなもののが生き物の暮らす場所になっています。
まちの景観・郷土の風景を形成するみどり	黒目川や公園、畑、並木道などが「地域のみどり」として親しまれていますが、みどりの風景が少ない場所もあります。
暮らしに息づく農業活動の場となるみどり	宮戸から田島にかけて、まとまった畑が広がっており、まちなかにも小さな畑が点在しています。宮戸3丁目では、斜面の林と一緒になった田んぼをどう守っていくか検討されています。
健康づくりの場となるみどり	川沿いの遊歩道はジョギングや散歩に使われており、健康づくりの大切な場所です。一方で、駅から離れた場所では、歩きやすい歩道が十分につながっていません。
身近な遊び場となるみどり	市街地では、人口の増加に公園の整備が追いついておらず、特に朝志ヶ丘から宮戸付近で不足していますが、新しく「みやど公園」が整備されました。また、「保全緑地」も遊び場として活用できる可能性があります。
にぎわいや交流の場となるみどり	まちなかには、イベントができるような広場が足りません。今ある公園などをうまく使って、交流の場を充実させることが大切です。
防災拠点となるみどり	宮戸から朝志ヶ丘にかけて、災害時の拠点となるような公園が不足しています。

北部地域のみどりの方針

- 《身近な公園の不足》 《身近な公園の不足》人口の増加に公園の整備が追いついておらず、特に朝志ヶ丘や宮戸エリアで不足しています。市民アンケートでも「もっと公園がほしい」という声が多く挙がっています。
- 《安全で快適な歩行者ネットワークの構築》 市民からは「みどり豊かで安全な歩道」を望む声が多くあります。駅から離れた地域などで誰もが安心して歩ける道の整備が課題です。
- 《黒目川の保全と活用》 朝霞のみどりを象徴する黒目川は、その優れた自然環境を守りながら、魅力を高め、次の世代へ引き継いでいくことが求められます。
- 《ヒートアイランド現象への対策》 住宅が密集しているため、夏の暑さ（ヒートアイランド現象）を和らげるためのみどりが重要になっています。
- 《防災機能の強化》 身近な防災拠点となる公園について、朝志ヶ丘や宮戸エリアでは不足しています。
- 《樹林地の保全》 貴重な自然である樹林地ですが、木が高齢になり「ナラ枯れ」という病気の被害が広がっています。樹林地を残すことに加え、将来にわたってどう手入れをしていくかが課題です。
- 《農業景観の保全》 黒目川や新河岸川の沿岸には、美しい田園風景が広がっています。これらは市民の暮らしを支える大切な場所であり、保全が望まれます。また、宮戸緑地の周辺には、斜面の林と水田、川がセットになった貴重な風景が残されています。昔ながらの農業の風景として、守っていくことが求められます。

主な課題

①暮らしの質を高める身近なみどりを充実させる

- a. 身近な公園が不足している地域では、「市民緑地制度」や「立体都市公園制度（施設の上などを活用した公園）」、今ある公園の充実など、新しい仕組みも活用しながら、誰もが気軽に立ち寄れる憩いの場をつくります。
- b. 遊びや交流の拠点となる公園を確保するため、「（仮称）浜崎ふれあい公園」の用地として取得した土地を含め、活用を検討します。
- c. 新しい道路の整備にあわせて、安全で歩くことが楽しくなるような「みどりのネットワーク」をつくります。
- d. 雨水を地面に浸み込ませたり、生き物のすみかになったりする、まちなかの農地を守ります。

②黒目川・新河岸川を中心とした自然環境を守り・楽しむ

- a. 公園が少ないこの地域において、黒目川と新河岸川は貴重なみどりの空間です。保全活動を支援するとともに、自然観察会やイベントなどを通じて、市民の皆さんのが地域の自然の価値を再発見し、みどりへの愛着を深めるきっかけをつくります。
- b. 黒目川沿いの田園風景は、身近に農業とふれあえる貴重な場所です。次の世代へ引き継いでいくため、保全活動を支援します。
- c. 新河岸川周辺の林や田園風景をひとつの「まとまり」として捉え、その豊かな自然環境を次の世代へ引き継ぐための活動を支援します。

③持続可能な都市環境をつくる

- a. 駅前広場や公共空間の整備においては、人が主役の居心地が良く歩きたくなる（ウォーカブルな）空間や、交流の場づくりを進めます。
- b. ヒートアイランド現象の緩和や地下水を蓄えるなど、グリーンインフラ（自然が持つ機能）の視点を取り入れたまちづくりを目指します。
- c. ナラ枯れ等の課題を抱える樹林地については、専門家や市民の皆さんと協力しながら、将来にわたって元気な状態を保てるような手入れの方法を考えます。

主な取組

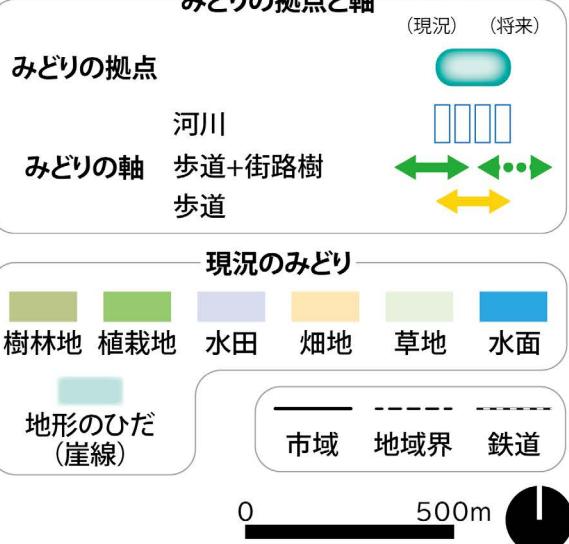
みどりの方針図



みどりの取組

	(現況)	(将来)
みどりの保全		
特別緑地保全地区	■■■■	■■■■
保護地区	■■■	
生産緑地地区	■■	
公園等の充実		
都市公園	■■■	■■■■■
公園類似施設	■■	■■■■
公園不足域の解消検討		
市民農園	□	
面的なみどりの充実		
緑化推進		
雨水浸透貯留の推進		
農地などの保全		
雨水貯留や緑化の推進		
駅周辺のウォーカブル空間の整備	■	

みどりの拠点と軸



0 500m

東部地域

面 積	人 口	みどり率	
3.6km ²	30,883 人	37.3%	
市民アンケート調査	問 1 みどりに対する満足度 (回答の平均)	b.お住いの近くのみどりの豊かさや魅力に満足している	0.22 (そう思わない-1.0~1.0そう思う)
		d.お住いの近くの公園に満足している	-0.03 (そう思わない-1.0~1.0そう思う)
		g.災害時に避難地や活動拠点として機能する公園がある	0.01 (そう思わない-1.0~1.0そう思う)
		h.良いまちの景観がつくられている	0.16 (そう思わない-1.0~1.0そう思う)
	問 2 豊か・魅力的と感じるみどり	黒目川(331件)、城山公園(70件)、新河岸川(22件)、越戸川(12件)、田島緑地(9件)、水久保公園(6件)、朝霞駅周辺(5件)、高橋家住宅(4件)、東圓寺(3件)	
	問 3 将来に残したいと思うみどり	黒目川(158件)、城山公園(85件)、根岸台の斜面林(10件)、新河岸川(6件)、格塚古墳公園(4件)、水久保公園(4件)、朝霞駅周辺(3件)、高橋家住宅(3件)、越戸川(3件)、根岸台自然公園(3件)	
	問 4 年間公園利用頻度 (回答の平均)	31.1回(市全体30.9回)	
	問 5 近くの公園の評価 (回答の平均)	a.ベンチなどの休憩施設が充実している	0.07 (そう思わない-1.0~1.0そう思う)
		c.公園の植物がよい景観をつくりっている	0.16 (そう思わない-1.0~1.0そう思う)
	問 6 みどりのまちづくりに必要な施策 (上位を表示)	【1位】道路においてみどり豊かで安全に歩ける歩道空間を整備する(18.2%) 【3位】健康づくりや自然とのふれあいの場となる川沿いの散歩道を充実させる(13.3%)	【2位】だれもが気軽に利用できるよう小規模でも身近な公園や緑地を充実させる(16.8%) 【4位】民間の協力を得て、魅力的な公園的空間を整備し運営する(7.4%)
	問 7 緑化活動等への参加経験 (回答者における割合)	【1位】生け垣や花壇など自宅の庭の緑化(12.4%) 【3位】全てに参加したことがない(10.6%)	【2位】道路などの清掃活動(11.3%) 【4位】河川の清掃や草刈り(7.0%)
		【1位】水害の軽減など自然災害による被害を軽減するみどり(¥142) 【3位】日射の緩和等により都市の気温上昇を緩和するみどり(¥128)	【2位】CO ₂ の吸収減となり地球温暖化を緩和するみどり(¥129) 【4位】子どもの遊び場や散策の場となるみどり(¥112)



みどりのカルテ

地域	町丁目	雨水の地表面浸透量 (mm/日)	雨水の地表面排水量 (mm/日)	地表面温度 (°C)	炭素固定量 (t/ha/年)	生物指標の多様度 (%)	豊か・魅力と感じるみどりの回答数 (件)	農業活動空間面積率 (%)	散策路・歩道の長さ (m/ha)	必要公園面積に対する現況公園の過不足面積 (ha)	イベント開催に供するオーブンスペース面積 (m²/ha)	非水害時ににおける一人あたりの避難難有効面積 (m²/人)	水害時における一人あたりの避難有効面積 (m²/人)
東部	仲町1丁目	0.81	1.50	34.53	0.35	20.91	0.74	4.3%	15.9	-5.86	0.55	1.10	1.10
	仲町2丁目	0.69	1.70	33.97	0.87	24.46	2.72	8.0%	259.4	-6.65	1.22	0.85	0.85
	根岸台1丁目	0.98	1.34	34.27	0.70	25.82	1.55	11.5%	7.7	-6.11	0.53	1.12	1.12
	根岸台2丁目	1.31	0.95	33.11	1.94	36.14	4.05	27.3%	86.1	-2.14	3.96	2.97	4.03
	根岸台3丁目	0.59	1.47	33.96	0.81	28.08	1.53	2.4%	126.8	-3.57	9.40	6.78	7.45
	根岸台4丁目	1.25	0.97	33.03	1.85	41.11	3.25	17.7%	80.7	-1.69	4.00	2.02	2.34
	根岸台5丁目	1.04	1.38	33.81	1.04	27.96	3.17	17.0%	154.3	-4.14	0.98	0.54	0.54
	根岸台6丁目	1.05	1.38	33.91	1.08	25.89	2.42	18.7%	34.9	-5.35	1.34	0.98	0.98
	根岸台7丁目	1.27	1.01	33.26	1.77	37.86	4.48	23.9%	24.3	-2.65	3.00	2.60	2.60
	根岸台8丁目	1.31	0.87	32.71	2.28	41.79	5.67	19.5%	57.3	-1.69	5.54	3.77	2.88
	岡1丁目	0.98	1.34	33.99	0.99	26.07	2.20	16.4%	46.5	-4.57	1.65	2.91	2.76
	岡2丁目	1.05	1.06	32.99	1.76	38.26	2.66	5.1%	115.9	-0.81	15.01	15.72	0.76
	岡3丁目	0.91	1.07	33.12	1.49	37.59	20.15	6.7%	81.3	-0.72	12.59	8.20	3.61
	大字岡	0.57	0.65	32.43	2.32	35.45	45.77	28.6%	125.8	2.12	41.06	41.26	0.47
	大字台・根岸	0.52	0.43	31.91	2.49	36.29	28.14	26.6%	87.8	2.56	133.49	147.05	64.75
	大字溝沼の一部	0.40	1.22	33.23	1.13	25.22	37.02	9.5%	39.1	0.23	23.00	21.42	0.57
地域全体		0.90	1.01	33.11	1.67	33.85	13.53	17.6%	81.9	-1.55	30.04	31.46	12.76
朝霞市全域		0.77	1.08	33.06	1.59	32.47	11.22	9.9%	75.1	-1.21	32.12	32.95	14.95

グリーンインフラの効用別分析

健全な水循環を支えるみどり	段丘の上では家が増えていますが、畠などの自然も残っており、これらが混ざり合っている地域です。畠などの土がある場所は、雨水がよく浸みこむため、水害を防いだり、地下水を蓄えたりするのに役立っています。
都市の気温上昇を抑えるみどり	家が増えて地面の温度が高くなりやすい地域ですが、公園や斜面の林などは涼しい場所（クールアイランド）になっていて、まちの暑さを和らげるのに役立っています。
地球温暖化の緩和に貢献するみどり	段丘の縁（ふち）にある斜面の林や、広く残っている農地などは、二酸化炭素を吸収しています。しかし、雑木林では木が高齢になったり、「ナラ枯れ」という病気が増えたりしていることが課題です。
生き物の生息空間となるみどり	家が増える一方で、農地や林が点在し、いろいろな環境がパッチワークのように混ざり合っています。そのため、多くの種類の生き物が暮らしており、生き物の移動ルートとしての役割も果たしています。
まちの景観・郷土の風景を形成するみどり	黒目川は、地域で最も魅力的なみどりとして親しまれています。ほかにも、公園や畠、並木道、里山などが、この地域らしい美しい風景をつくっています。
暮らしに息づく農業活動の場となるみどり	岡や根岸といった地区には、まとまった農地が広がっており、それ以外の場所にも生産緑地が点在しています。身近な場所で農業に触れられる地域です。
健康づくりの場となるみどり	黒目川や公園、斜面の林など、みどり豊かな環境に恵まれています。これらを結ぶ散策ルート（トレイルコース）もありますが、歩道が途切れている場所などもあり、整備が必要です。
身近な遊び場となるみどり	市街地では、人口の増加に公園の整備が追いついておらず、特に朝霞駅の周辺で足りていません。新しい公園づくりや、保全されている樹林地を遊び場として活用していくことが期待されています。
にぎわいや交流の場となるみどり	市街地、特に朝霞駅の周辺には、イベントができるような広場が足りません。今ある公園などをうまく使って、交流の場を充実させることが大切です。
防災拠点となるみどり	災害時の拠点となるような公園が不足しています。

東部地域のみどりの方針

主な課題

- 《農地や斜面林と調和したまちづくり》 宅地化が進む中で、崖線と呼ばれる斜面のみどりや田園風景といったこの地域ならではの景色をどう守り、まちづくりと両立させるかが大きな課題です。
- 《都市環境の保全》 宅地化が進む中でも、みどりが持っている「環境を整える力」（地下水を蓄える、水害を抑える、夏の暑さを和らげる、生き物を守るなど）を維持していく必要があります。
- 《みどりのネットワークの形成》 点在する公園や緑地を、快適な遊歩道でつなぎ、まち歩きを楽しめるような「みどりのネットワーク」をつくることが求められています。
- 《中心市街地における憩いの空間づくり》 多くの人が集まる朝霞駅周辺は、公園が不足しています。こどもたちの遊び場や、多世代が交流できる広場の確保が求められます。一方で、新しい公園もできており、そこを中心としたコミュニティ活動を盛り上げることも必要です。
- 《防災機能の強化》 身近な防災拠点となる公園について、仲町から根岸台1丁目・5丁目・6丁目付近において不足しています。

①景観資産を守り、まちの安全性と魅力を高める

- a. 住みよい環境をつくっている崖線のみどりや農地などの風景を守っていくため、市民や事業者の皆さんと協力して、その大切さを共有していきます。
- b. 崖線には、豊かな自然のシンボルである湧水が多く残っています。この水を守るために、台地の上では、雨水が地面に浸み込みやすくなるようにします。開発が行われる場所でも、雨水を一時的に貯めたり浸みこませたりする工夫を進め、湧水を守るとともに、大雨による浸水被害を減らすまちづくりを進めます。
- c. 旧高橋家住宅等、地域のみどりと一緒にになった歴史的な建物を守ります。また、地域の歴史や文化を感じられる散策ルート（トレイルコース）などを充実させ、市民の皆さんのが地域の魅力にふれ、誇りを持てるような機会を増やします。

②暮らしを支える身近なみどりを創出する

- a. 身近な公園が不足している駅周辺の地域では、「市民緑地制度」や「立体都市公園制度（施設の上などを活用した公園）」、今ある公園の充実など、新しい仕組みも活用しながら、誰もが気軽に立ち寄れる憩いの場をつくります。
- b. 民間の開発と連携して、誰もが使える広場（オープンスペース）を確保できないか検討します。
- c. ヒートアイランド現象の緩和や、地下水を蓄えるなど、グリーンインフラ（自然が持つ機能）の視点を取り入れたまちづくりを目指します。

③みどりのある暮らしの実践

- a. この地域にある農地や林、歴史的な建物を生かし、農業体験や自然学習など、身近な場所でみどりに触れる機会を充実させます。
- b. 地元の農産物を味わう「地産地消」や、公園サポーターへの参加、自宅でのガーデニングなど、みどりを楽しむ暮らしを広げる取り組みを進めます。

主な取組

みどりの方針図



西部地域

面 積	人 口	みどり率	
2.2km ²	29,563 人	18.9%	
市民アンケート調査	問 1 みどりに対する満足度 (回答の平均)	b.お住いの近くのみどりの豊かさや魅力に満足している	-0.10 (そう思わない-1.0~1.0そう思う)
		d.お住いの近くの公園に満足している	-0.10 (そう思わない-1.0~1.0そう思う)
		g.災害時に避難地や活動拠点として機能する公園がある	-0.14 (そう思わない-1.0~1.0そう思う)
		h.良いまちの景観がつくられている	-0.10 (そう思わない-1.0~1.0そう思う)
	問 2 豊か・魅力的と感じるみどり	黒目川 (331 件)、島の上公園 (7 件)、南割公園 (6 件)	
	問 3 将来に残したいと思うみどり	黒目川 (154 件)、島の上公園 (10 件)、南割公園 (7 件)、朝霞台駅の木々 (2 件)、弁財公園 (2 件)	
	問 4 年間公園利用頻度 (回答の平均)	21.9 回 (市全体 30.9 回)	
	問 5 近くの公園の評価 (回答の平均)	a.ベンチなどの休憩施設が充実している	-0.07 (そう思わない-1.0~1.0そう思う)
		c.公園の植物がよい景観をつくっている	0.07 (そう思わない-1.0~1.0そう思う)
	問 6 みどりのまちづくりに必要な施策 (上位を表示)	【1位】道路においてみどり豊かで安全に歩ける歩道空間を整備する (18.6%)	
		【3位】健康づくりや自然とのふれあいの場となる川沿いの散歩道を充実させる (12.4%)	
	問 7 緑化活動等への参加経験 (回答者における割合)	【1位】全てに参加したことがない (13.0%)	
		【3位】生け垣や花壇など自宅の庭の緑化 (9.3%)	
	問 10 みどりを守るための仮定の支払額 (支払額の平均)	【1位】CO ₂ の吸収減となり地球温暖化を緩和するみどり (¥182)	
		【3位】避難地や防災拠点として災害時の生活を復旧・支援するみどり (¥121)	



みどりのカルテ

地域	町丁目	雨水の地表面浸透量 (mm/日)	雨水の地表面排水量 (mm/日)	地表面温度 (°C)	炭素固定量 (t/ha/年)	生物指標の多様度 (%)	豊か・魅力を感じるみどりの回答数(件)	農業活動面積率 (%)	散策路・歩道の長さ (m/ha)	必要公園面積に対する現況公園の過不足面積 (ha)	イベント開催に供するオーブンスペース面積 (m²/ha)	非水害時における一人あたりの避難有効面積 (m²/人)	水害時における一人あたりの避難有効面積 (m²/人)
西部	東弁財1丁目	0.18	2.17	34.67	0.09	11.45	0.21	0.0%	293.4	-9.39	1.95	1.60	1.60
	東弁財2丁目	0.57	1.45	34.06	0.73	24.17	2.29	9.3%	74.0	-5.68	6.94	2.17	1.43
	東弁財3丁目	0.67	1.64	34.27	0.26	21.49	1.20	0.6%	70.3	-5.16	3.23	3.11	2.10
	西弁財1丁目	0.51	1.77	34.58	0.13	16.89	1.21	0.0%	101.3	-4.61	1.07	1.51	1.51
	西弁財2丁目	0.35	2.04	34.73	0.12	14.71	0.23	0.0%	257.4	-8.92	0.59	1.62	1.62
	三原1丁目	0.64	1.71	34.42	0.42	23.36	1.24	3.1%	70.6	-6.61	0.39	1.59	1.59
	三原2丁目	0.72	1.59	34.46	0.36	24.57	0.72	2.8%	52.3	-7.95	0.57	0.93	0.93
	三原3丁目	0.91	1.32	34.12	0.62	29.13	1.05	3.8%	61.2	-6.57	0.76	0.84	0.84
	三原4丁目	0.62	1.52	34.65	0.20	25.69	0.37	0.0%	28.0	-7.76	1.04	1.02	1.02
	三原5丁目	0.72	1.58	34.20	0.60	23.73	1.40	9.1%	33.3	-4.56	0.56	0.71	0.71
	泉水1丁目	0.74	1.70	34.27	0.79	19.83	2.12	11.6%	103.8	-2.08	3.22	2.27	3.63
	泉水2丁目	0.83	1.44	33.80	1.13	25.97	2.71	15.8%	42.3	-3.54	5.68	3.53	3.32
	泉水3丁目	0.75	1.55	33.89	0.97	26.62	1.53	4.2%	57.8	-3.85	3.94	4.20	1.78
	膝折町3丁目の一 部	0.78	1.45	33.96	0.89	25.95	14.65	5.0%	16.3	-1.58	7.56	2.09	3.88
	膝折町4丁目の一 部	0.48	1.69	33.93	0.72	22.79	21.96	2.0%	56.1	-3.57	6.98	3.87	5.14
	大字浜崎の一 部	0.70	0.51	32.07	3.11	40.82	41.28	56.7%	46.9	0.35	10.96	4.07	0.43
	大字溝沼の一 部	0.78	0.82	32.58	1.97	31.69	56.08	27.7%	49.0	0.24	8.33	5.85	2.17
	地域全体	0.69	1.50	33.99	0.80	25.04	9.17	8.0%	65.9	-4.55	3.58	2.64	2.02
	朝霞市全域	0.77	1.08	33.06	1.59	32.47	11.22	9.9%	75.1	-1.21	32.12	32.95	14.95

グリーンインフラの効用別分析

健全な水循環を支えるみどり	段丘の上では建物や住宅が多く、雨水が地面に浸みこみにくい状態です。一方、畑や公園などの土がある場所ではよく浸み込むため、水害を防いだり、地下水を蓄えたりするのに役立っています。
都市の気温上昇を抑えるみどり	建物や住宅が多いため、全体的に地面の温度は高めです。しかし、黒目川沿いは涼しい風の通り道になっており、斜面の林など木々がある場所は涼しい場所（クールアイランド）として、まちの暑さ（ヒートアイランド現象）を和らげるのに役立っています。
地球温暖化の緩和に貢献するみどり	建物や住宅が多いため、みどりの量は少なく、二酸化炭素を吸収する力は弱めです。しかし、段丘の斜面にある林や黒目川の草地、浜崎・溝沼などの畑は、二酸化炭素を吸収する大切な役割を果たしています。
生き物の生息空間となるみどり	黒目川は、水辺と草地があるため、たくさんの種類の生き物が暮らしています。斜面の林や公園・学校の木々、小さな畑などがあり、崖の下には湧き水も出るため、まちの中にも小さな生き物のすみかがつくられています。
まちの景観・郷土の風景を形成するみどり	黒目川は、豊かで魅力的なみどりとして一番人気があります。ほかにも島の上公園や南割公園、畑、並木道、里山、個人の庭のみどりなども、地域の風景として親しまれています。一方で、みどりの風景が少ない場所もあります。
暮らしに息づく農業活動の場となるみどり	浜崎から溝沼にかけて、まとまった農地が広がっています。また、泉水などのまちなかにも小さな農地が点在し、みどりが少ない三原周辺にも農地が残されています。
健康づくりの場となるみどり	黒目川沿いは、ジョギングや散歩のコースとして親しまれています。北朝霞駅の周辺や大きな通りでは歩道が整備されていますが、駅から離れた場所では十分ではありません。
身近な遊び場となるみどり	まちなかでは、人口の増加に公園の整備が追いついておらず、全体的に足りていません。特に三原から東弁財にかけて不足しています。黒目川などを、遊び場として活用していくことが期待されています。
にぎわいや交流の場となるみどり	イベントができるような広場が足りません。新しい場所をつくるだけでなく、今ある公園などをうまく使って、交流の場を充実させることが大切です。
防災拠点となるみどり	三原地区では、災害時の拠点となるような公園が不足しています。

西部地域のみどりの方針

主な課題

- 《都市を支えるグリーンインフラの充実》 建物や道路などが多く、雨水が地面に浸み込みにくいため、大雨の際に雨水が一気に流れ出す心配があるほか、夏の暑さ（ヒートアイランド現象）も課題となっています。「グリーンインフラ」の考え方を取り入れたまちづくりが重要になります。
- 《身近な公園の不足》 市民アンケートでも公園に対する満足度が低く、数も質も良くしていく必要があります。特に三原や東弁財エリアでは公園が不足しており、「身近な公園がほしい」という声が非常に強くなっています。
- 《安全で快適な歩行者ネットワークの構築》 駅から離れた地域では歩道が十分に整備されておらず、誰もが安全に歩ける空間の確保が課題です。
- 《黒目川の保全と活用》 朝霞のみどりを象徴する黒目川は、その優れた自然環境を守りながら、魅力を高め、次の世代へ引き継いでいくことが求められます。
- 《防災機能の強化》 災害時の拠点となる公園が不足しており、特に三原などでその課題が大きくなっています。
- 《市民参加のきっかけづくり》 清掃などの緑化活動に参加したことがある人が少ない傾向にあります。みどりへの愛着を育み、市民の皆さんのが主役となってまちづくりに参加する「きっかけ」が必要です。

主な取組

① グリーンインフラでまちの環境を良くする

- 夏の暑さを和らげたり、地下水を蓄えたりするなど、グリーンインフラ（自然が持つ機能）の視点を取り入れたまちづくりを目指します。
- 公園や公共施設において、雨水を地面に浸み込ませる機能を充実させます。また、民間の開発においても、雨水を貯めたり浸み込ませたりする施設をつくるよう働きかけるなど、グリーンインフラの取り組みを進めます。

② 暮らしを支える身近なみどりをつくる・育てる

- 身近な公園が不足しているため、「市民緑地制度」や今ある公園の充実など、新しい仕組みも活用しながら、誰もが気軽に立ち寄れる憩いの場の充実を目指します。
- 新しい道路の整備にあわせて、歩道や街路樹を充実させ、誰もが安全で快適に歩きたくなるまちづくりを目指します。

③ 市民協働でみどりを育む文化を醸成する

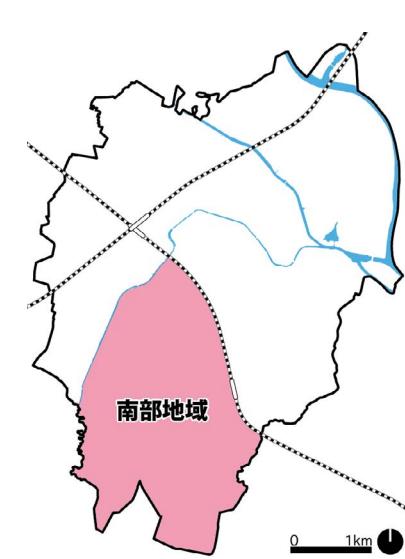
- 公園が少ないのでこの地域において、黒目川は貴重なみどりの空間です。保全活動を支援するとともに、自然観察会やイベントなどを通じて、市民の皆さんのが地域の自然の価値を再発見し、みどりへの愛着を深めるきっかけをつくります。
- 市民の皆さんのが行う公園の清掃や花壇づくりなどを支援し、協力して維持管理を行う「ふれあいの輪」を広げていきます。
- 緑化活動に関心のある人が集まり、楽しく学べるワークショップなどを開催し、地域のコミュニティを盛り上げます。

みどりの方針図



南部地域

面 積	人 口	みどり率			
5.3km ²	53,204 人	26.6%			
市民アンケート調査	問 1 みどりに対する満足度 (回答の平均)	b.お住いの近くのみどりの豊かさや魅力に満足している	0.41 (そう思わない-1.0~1.0そう思う)		
		d.お住いの近くの公園に満足している	0.29 (そう思わない-1.0~1.0そう思う)		
		g.災害時に避難地や活動拠点として機能する公園がある	0.22 (そう思わない-1.0~1.0そう思う)		
		h.良いまちの景観がつくられている	0.34 (そう思わない-1.0~1.0そう思う)		
	問 2 豊か・魅力的と感じるみどり	黒目川(331件)、青葉台公園(116件)、シンボルロード(115件)、朝霞の森(106件)、市役所周辺(48件)、朝霞中央公園(43件)、滝の根公園(35件)、公園通り(29件)、基地跡地(15件)、朝霞駅周辺(5件)、広沢の池(3件)			
	問 3 将来に残したいと思うみどり	朝霞の森(158件)、黒目川(154件)、青葉台公園(55件)、シンボルロード(42件)、基地跡地(34件)、滝の根公園(27件)、公園通り(14件)、朝霞中央公園(13件)、市役所周辺(9件)、朝霞駅周辺(3件)、広沢の池(3件)			
	問 4 年間公園利用頻度 (回答の平均)	35.9回(市全体30.9回)			
	問 5 近くの公園の評価 (回答の平均)	a.ベンチなどの休憩施設が充実している	0.19 (そう思わない-1.0~1.0そう思う)	b.安全に遊べる遊具が充実している	0.16 (そう思わない-1.0~1.0そう思う)
		c.公園の植物がよい景観をつくりっている	0.37 (そう思わない-1.0~1.0そう思う)	h.近くの住民によく利用されている	0.51 (そう思わない-1.0~1.0そう思う)
	問 6 みどりのまちづくりに必要な施策 (上位を表示)	【1位】道路においてみどり豊かで安全に歩ける歩道空間を整備する(18.8%)		【2位】だれもが気軽に利用できるよう、小規模でも身近な公園や緑地を充実させる(14.0%)	
		【3位】健康づくりや自然とのふれあいの場となる川沿いの散歩道を充実させる(11.8%)		【4位】民間の協力を得て、魅力的な公園的空間を整備し運営する(8.2%)	
	問 7 緑化活動等への参加経験 (回答者における割合)	【1位】全てに参加したことがない(14.5%)		【2位】道路などの清掃活動(10.2%)	
		【3位】生け垣や花壇など自宅の庭の緑化(10.1%)		【4位】身近な生き物観察やみどりの調査(6.5%)	
	問 10 みどりを守るために仮定の支払額 (支払額の平均)	【1位】CO ₂ の吸収減となり地球温暖化を緩和するみどり(¥156)		【2位】水害の軽減など自然災害による被害を軽減するみどり(¥142)	
		【3位】日射の緩和等により都市の気温上昇を緩和するみどり(¥118)		【4位】避難地や防災拠点として災害時の生活を復旧・支援するみどり(¥115)	



みどりのカルテ

地域	町丁目	雨水の地表面浸透量 (mm/日)	雨水の地表面排水量 (mm/日)	地表面温度 (°C)	炭素固定量 (t/ha/年)	生物指標の多様度 (%)	豊か・魅力を感じるみどりの回答数(件) (%)	農業活動空間面積率 (%)	散策路・歩道の長さ (m/ha)	必要公園面積に対する現況公園の過不足面積 (ha)	イベント開催に供するオーブンスペース面積 (m²/ha)	非水害時における一人あたりの避難有効面積 (m²/人)	水害時における一人あたりの避難有効面積 (m²/人)
南部	本町1丁目	0.70	1.61	34.34	0.40	20.62	1.71	2.6%	97.4	-3.06	3.07	4.20	4.19
	本町2丁目	0.68	1.68	34.71	0.14	17.19	0.47	0.0%	73.6	-6.44	3.11	2.92	2.92
	本町3丁目	0.88	1.42	33.69	0.99	27.05	3.04	13.5%	159.6	1.15	5.49	6.56	6.55
	栄町1丁目	0.77	1.46	34.23	0.41	25.37	1.27	1.8%	32.8	-3.81	4.97	7.14	7.14
	栄町2丁目	0.70	1.55	34.24	0.55	26.58	1.13	4.9%	66.9	-6.82	1.21	2.51	2.51
	栄町3丁目	0.52	1.99	34.50	0.37	21.01	0.61	0.0%	129.4	-6.30	5.44	9.16	9.16
	栄町4丁目	0.46	2.05	34.32	0.12	19.43	0.36	0.0%	256.7	-2.30	3.04	6.78	6.78
	栄町5丁目	0.88	1.59	34.01	0.44	20.55	0.86	0.3%	161.9	4.08	11.91	26.02	26.02
	幸町1丁目	0.83	1.47	34.22	0.48	24.69	1.13	5.9%	97.9	1.67	8.65	14.26	14.26
	幸町2丁目	0.77	1.53	34.41	0.28	25.62	0.48	0.0%	85.0	-3.92	4.45	21.22	21.22
	幸町3丁目	0.97	1.46	33.66	0.92	23.42	1.56	0.1%	97.4	0.04	8.30	39.77	39.77
	膝折町1丁目	0.94	1.33	34.18	0.69	26.36	1.61	10.5%	23.1	-4.20	3.35	4.59	4.69
	膝折町2丁目	0.58	1.56	33.81	0.86	25.99	12.16	5.7%	108.7	-2.56	6.23	12.80	12.80
	膝折町3丁目の一部	0.37	1.54	33.63	0.59	23.73	80.94	0.0%	22.1	-1.96	5.77	0.91	2.14
	膝折町4丁目の一部	0.77	1.27	33.99	0.64	22.96	21.78	5.4%	23.7	-3.87	5.70	3.25	3.88
	膝折町5丁目	0.99	1.24	33.97	1.22	25.04	2.99	26.7%	4.3	-2.36	3.94	5.13	5.20
	溝沼1丁目	0.75	1.50	34.32	0.61	25.70	1.27	6.5%	53.1	-1.76	4.74	4.76	4.76
	溝沼2丁目	0.80	1.37	33.83	1.03	30.57	7.48	7.5%	92.7	-4.81	2.08	2.23	1.35
	溝沼3丁目	0.87	1.22	34.14	0.76	26.59	1.58	6.4%	102	-4.45	4.90	4.82	3.19
	溝沼4丁目	0.50	1.55	34.30	0.49	24.12	0.97	4.3%	35.8	-5.61	7.58	6.54	1.91
	溝沼5丁目	0.63	1.33	33.90	0.77	31.27	1.71	8.0%	67.7	-6.33	3.01	3.53	1.72
	溝沼6丁目	0.49	1.33	34.01	0.78	31.76	1.37	5.0%	49.4	-4.17	3.58	2.75	1.97
	溝沼7丁目	0.39	1.31	34.07	0.58	27.31	1.24	6.3%	44.8	-5.07	8.98	3.32	0.32
	大字溝沼の一部	0.60	0.87	32.76	1.65	31.29	63.33	18.6%	66.3	0.04	9.44	6.02	0.96
	青葉台1丁目	1.28	1.22	32.46	2.01	38.12	38.31	1.0%	226.0	10.98	18.69	33.89	33.89
	大字膝折	1.99	0.46	30.90	3.51	48.83	55.49	0.0%	195.7	12.76	25.05	42.47	42.47
	自衛隊	1.42	1.07	32.60	1.92	37.07	2.81	0.0%	26.8	1.61	64.50	81.92	81.92
	自衛隊	1.95	0.50	31.61	3.47	46.70	2.32	0.0%	10.7	0.44	32.32	58.74	58.74
	自衛隊	1.42	1.03	32.53	1.78	37.95	2.72	0.1%	13.4	2.97	142.55	144.83	144.83
	地域全体	0.97	1.28	33.49	1.19	29.50	9.82	4.0%	78.6	-0.79	21.62	28.79	28.36
	朝霞市全域	0.77	1.08	33.06	1.59	32.47	11.22	9.9%	75.1	-1.21	32.12	32.95	14.95

グリーンインフラの効用別分析

健全な水循環を支えるみどり	建物が増えていますが、基地跡地や自衛隊の駐屯地、畑などでは、雨水がよく浸み込み、水害を防いだり、地下水を蓄えたりするのに役立っています。
都市の気温上昇を抑えるみどり	家が増えて地面の温度が高くなりやすいですが、基地跡地や自衛隊の駐屯地は涼しい場所になっており、ヒートアイランド現象を和らげるのに役立っています。
地球温暖化の緩和に貢献するみどり	まちが発展する中でも、基地跡地や自衛隊の駐屯地にある森や草地は、二酸化炭素を吸収しています。しかし、雑木林では「ナラ枯れ」という病気の被害が増えていることが課題です。
生き物の生息空間となるみどり	基地跡地や自衛隊の駐屯地にある森や草地には、たくさんの種類の生き物が暮らしていると考えられ、生き物の移動ルート（エコロジカルネットワーク）の一部として大切な役割を果たしています。
まちの景観・郷土の風景を形成するみどり	黒目川や基地跡地の周りにあるみどりの風景は、とても人気があります。公園や畑、並木道なども「地域のみどり」として親しまれていますが、みどりが少ない場所もあります。
暮らしに息づく農業活動の場となるみどり	溝沼や膝折町、本町3丁目のあたりには畑が点在しており、身近な場所で農業に触れられる環境が残されています。
健康づくりの場となるみどり	朝霞駅から基地跡地の周辺は、並木道や遊歩道が整備され、健康づくりに役立っています。一方で、歩きやすい歩道が十分につながっていない地域もあります。
身近な遊び場となるみどり	基地跡地の周辺や、和光市・練馬区に近い地域は公園が充実していますが、それ以外の地域では公園が不足しています。
にぎわいや交流の場となるみどり	「朝霞の森」などではイベントが開かれ、交流の場になっています。しかし、ほかの場所ではイベントができる広場が足りないため、今ある公園などをうまく活用することが大切です。
防災拠点となるみどり	青葉台公園や朝霞中央公園など、大きな公園があるため、災害時の拠点となる場所は概ね足りています。

南部地域のみどりの方針

主な課題

- 《大規模なみどりを守り、維持する》 基地跡地などの大きなみどりは、まちの気温上昇を抑え、二酸化炭素（CO₂）を吸収する、まさに「都市の肺」のような存在です。この貴重な環境を適切に管理し、その機能を維持していくことが欠かせません。
- 《みどりのバランスを整える》 基地跡地周辺には大きな公園が集中していますが、それ以外の住宅地では身近な公園が不足しており、地域によってみどりの量に偏りが見られます。
- 《みどりのネットワークの形成》 市民からは「みどり豊かで安全な歩道」を望む声が多くなっています。本町や溝沼エリアでは、誰もが安心して歩ける道の整備が求められています。
- 《都市を支えるグリーンインフラの充実》 基地跡地周辺のまとまったみどり以外は、建物や道路など、水が地面に浸みこみにくい場所が多くなっています。そのため、大雨の際に雨水が一気に流れ出す心配があるほか、ヒートアイランド現象も課題です。まちづくりにおいてグリーンインフラの考え方方が重要になります。
- 《コミュニティの場の形成》 大きな公園以外に、地域の皆さん気が軽く集まれるような広場が少なく、地域の人たちのつながりを深める上での課題となっています。
- 《樹林地の保全》 樹林地は貴重な自然環境です。これを残すとともに、将来にわたって良い状態が続くよう、管理していくことが求められます。

① 大きなみどりを守り、その価値を高める

- a. 基地跡地一帯の緑地は、朝霞のまちのグリーンインフラ（自然が持つ機能）の要（かなめ）として、公園としての整備を進めたり、みどりが持つ様々な力を守ったりします。
- b. 「朝霞の森」の周辺では、貴重なみどりを環境学習やにぎわいの場として活用するなど、その価値を多くの市民の皆さんと共有し、未来へ引き継いでいくための取り組みを進めます。

② みどりの恵みを地域全体に広げる

- a. 公園が不足している住宅地において、計画的に公園等を確保できないか検討し、みどりの配置のバランスを整えます。
- b. 駅の周辺では、居心地が良く歩きたくなる（ウォーカブルな）空間づくりを進めます。また、大きな緑地と住宅地をみどり豊かな歩道などでつなぎ、誰もが安全にみどりの恵みに触れられるネットワークをつくります。その際、ベンチやポケットパーク（小さな休憩所）などを設け、ひと休みできる空間を充実させます。

③ グリーンインフラで暮らしの安全と快適性を高める

- a. この地域には公共空間が多く、これらが水循環や暑さ対策、生き物の保全などに役立っています。引き続き、グリーンインフラの視点を大切にしたまちづくりを進めます。
- b. 民間の土地でも、農地や林を守るほか、建物を建てるときの緑化や、雨水を貯めたり浸み込ませたりする施設の設置を働きかけます。また、「みどりのカーテン」の普及などを通じて夏の暑さを和らげるとともに、小さな広場をつくるなど、コミュニティづくりにつながる取り組みを応援します。
- c. これらの取り組みにより、大雨による浸水被害を防いだり、湧水を守ったり、ヒートアイランド現象を和らげたりすることを目指します。

主な取組

みどりの方針図

